

# 中田かわら版 12月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■横浜港振興協会出前講座

### 「横浜港あれこれ」物語

「江戸っ子」は3代江戸に住まないと「江戸っ子」じゃないといわれるが、「濱っ子」は3日住めば立派な横浜っ子である。10月10日、「友遊会」（中田社協・支え合い事業部主催）で行われた同振興会参与・永田隆さんの講演はこんな話から始まる。言いかえれば横浜生まれ、横浜育ちの人はそんなに多くはないというのだ。横浜、よこはま、ヨコハマ、YOKOHAMAなどその時々によって、どれもドンピシャときまる寛容さを持っている横浜は確かに魅力的である。

横浜開港は安政6年（1859年）6月2日。嘉永6年（1853年）、米国のペリー提督が浦賀に来航、黒船の偉容に村人はびっくり。翌54年には早くも日米通商条約が締結されている。日本の文明開化のはしりである。それから154年後の現在、横浜港はどう変貌しただろうか。

永田さんは悲観的だ。「残念ながら横浜港は衰退の一途をたどっている。生産拠点の海外シフトが進み、輸出貨物は減少。国際競争などと言える状態ではない。」港の盛衰はコンテナの取扱量が目安になるが、横浜は平成20年をピークに減少傾向が続いている。日本でいま一番多いのが東京。元気がいいのが名古屋である。国際的には中国が最も多く2011年の統計でもベストテンのうち上位8番（2位はシンガポール）までが中国が占めている。ちなみに横浜は40位。

堅い話はさておきタイトルが「横浜港あれこれ」だけに話の内容も多岐にわたり興味津々。例えば入港する船にかかるのが入港税で、1万トン当たり10万円かかる。港湾区域の修理や保全に使われる。横浜港は開港から7期にかけて埋め立てを行い拡張してきた。三溪園もその一部だ。大きくかかわったのが、後のセメント王・浅野総一郎。渋沢栄一、安田善次郎らが資金援助をしている。鶴見線の駅名に今も浅野、安善の名前が残っている。

3月10日は「横浜三塔の日」。浜の玄関として多くの客人を出迎えてきた。出来た順から横浜開港記念館（ジャック1917年）、県庁（キング、1928年）、横浜税関（クイーン、1934年）。開港記念館は開港50周年を記念して大正6年に完成。すべて市民の寄付で建てられた公会堂である。塔には横浜市民全員が見られるように、4面に時計が掲げられている。（写真右上）



倉庫やクレーンが並ぶ港

山下公園から、まず目につく「大栈橋国際客船ターミナル」は国際デザインコンペで世界41か国、660件の応募から英国の建築家の作品が最優秀に選ばれた。平成18年、愛称を公募し4000点から選ばれたのが「クジラの背中」。海に浮かぶ雄大な鯨のイメージが膨らむ。横浜市歌は明治42年（1909）、「開港50年記念大祝賀会」の席で発表された。作詞は森鷗外で横浜市民にとって極めて身近な存在である。

（編集委員・宮田貞夫、市川栄二）

～一人ひとりがCO<sub>2</sub>を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



横浜開港記念館（ジャック）

# 1月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

## 平成26年 中田新春健康マラソン大会のお知らせ

日時：平成26年1月12日（日）雨天中止

開会式 9:30 スタート 2.5 km 10:00 5 km 10:20

場所：中田小学校校庭（スタート及びゴール）

申し込み方法：往復はがき（本人負担）による事前申込制（当日の申し込みはできません）

申し込み多数の場合は中田連合在住者を優先し、残りは抽選で決定します。

要綱は、立場地区センター、中田コミュニティハウス、葛野コミュニティハウス 中和田コミュニティハウスにおいてあります。

※12月20日必着

表彰：各種目とも1~3位まで表彰します。また参加者全員に参加賞、その他特別賞・飛び賞など多数有ります。

参加費：中田連合地区在住者以外は1,000円（但し中学生以下は無料）

※安全を考慮し参加者を2.5 km、5 km合わせて600名とします。

お問い合わせは、各自治会・町内会の体育部長まで。

申し込み方法及びコース図等の資料「中田新春健康マラソン大会 開催要項と申込方法」については、立場地区センター、中田コミュニティハウス、葛野コミュニティハウスに置いてあります。



## 「認知症高齢者」と問題点

「認知症は他人ごとではありません、認知症をよく知ってほしい」。9月は世界アルツハイマー月間だった。国際アルツハイマー病協会（ADL）は世界79カ国と地域が加盟し本人や家族への施策が充実することを目的に啓発活動を行っている。日本では「認知症の人と家族の会」が全国各地でリーフレットの配布や記念講演を開催して活動に取り組んでいる。厚生労働省の最近の調べでは、わが国の認知症高齢者は462万人を超え、この数字は四国4県と島根県の人口とほぼ等しい。

認知症は完治する薬はなく、早期に発見されれば適切な医療やケアで進行を抑えることが可能だが、生活に支障が出るため日常的な介護が必要で、介護をする家族の負担が重くなる。そこで必要なのが「安心して暮らせる社会の実現と社会保障の充実」。ところが、国は消費税を上げる一方で負担を引き上げ、軽度者を介護保険の対象から外す方向にある。「家族会」は自分たちの要求に逆行していると憂慮しているわけである。 (M)



「中田百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。[www.odoriba-cp.jp](http://www.odoriba-cp.jp)へアクセス！！